

令和2年度 学校自己評価システムシート (県立八潮高等学校)

目指す学校像	「清純 真摯」の校訓のもと、社会の中で力強く生きる力を育てる学校
--------	----------------------------------

重点目標	1 基礎学力の定着と向上を図り、より高い進路希望実現を目指す。 2 部活動への積極的な参加を促し、生徒の行動力・実践力を高める。 3 保護者・地域との連携を強化し、生徒募集の安定化を図る。
------	--

達成度	A	ほぼ達成(8割以上)
	B	概ね達成(6割以上)
	C	変化の兆し(4割以上)
	D	不十分(4割未満)

※学校関係者評価実施日とは、最終回の学校評価懇話会を開催し、学校自己評価を踏まえて評価を受けた日とする。

出席者	学校関係者	8名
	生徒	6名
	事務係(教職員)	7名

※ 重点目標は3つ以上の設定も可。重点目標に対応した評価項目(年度達成目標を意味する。)は複数設定可。
 ※ 番号欄は重点目標の番号と対応させる。評価項目に対応した「具体的方策、方策の評価指標」を設定。

学 校 自 己 評 価				学 校 関 係 者 評 価						
年 度 目 的 目 標				年 度 評 価 (令 和 3 年 2 月 1 日 現 在)						
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策	実施日	令和3年2月1日	
1	<p>○普通科特伸クラスが発足して3年目になる。進学に関しての成果が出始めてきた。さらに進学に向けてのシステムの構築が必要である。昨年度3学期に各教室にプロジェクトが設置された。50周年行事の一環として、授業用のタブレットを購入した。普通科クラス・体育コースともICT等を活用して、生徒一人一人の学力向上に向けて授業づくりを進めていく必要がある。</p>	<p>①生徒の基礎学力を定着・向上 ②特伸クラスを中心とした難関進路への増加 ③ICT授業の推進</p>	<p>①学力向上委員会と進路指導部が中心となり、生徒の学力向上に向けた具体策の検討を行う。 ①-2授業公開週間や研修会を実施し、生徒の実態に合わせた授業力向上に向けた話し合いを推進する。 ①-3未来を拓く『学び』プロジェクト」に希望者を派遣し、授業改善のリーダーの育成とともに、校内へのフィードバック(報告会)を行う。 ①-4期学習や読書指導等の指導を推進する。 ①-5前年度以上に資格取得指導を推進する。 ①-6受験機会の拡大や受験者数の増加を図り、生徒の主体的な学ぶ姿勢を育てていく。 ②進路指導部を中心に、難関進路実現のための指導を推進する。 ②-2基礎学力診断テスト結果の検証を進め、学習指導や進路指導に活かしていく。 ②-3進路行事を通じて生徒のキャリア教育の充実を図る。 ③プロジェクトの利用者の授業見学 ③-1タブレットの使用授業の授業見学</p>	<p>①②基礎学力診断テスト結果。 ①-2授業力向上の教科の実施。 ①-3校内フィードバックを実施。 ①-4図書貸出数の増加 ①-5資格試験受験者の増加及び合格者数の増加(前年比) ①-6受験者数の増加 ②就職事務系・公務員・中堅大学以上の大学進学 ②-23難関進路への積極的な挑戦と、進路実現100%を達成できたか。 ③プロジェクト利用教員数 ③-1タブレット使用教員数</p>	<p>①学力向上委員会・教務部を中心に、従来の授業見学に加えて教科横断的に授業方策の研究協議を行う授業研究・研究協議を導入した*1。全体でフィードバックを行い多くの方策を共有できた。朝学習*2を推進し、各教科で知識・技能の習得に着眼して作成した教材を使用することで、基礎学力の定着に寄与した*3。学力向上委員会を中心に、検定・資格取得プログラムを構築し、漢字検定*4、英語検定*5とともに飛躍的な合格率の向上が見られた。朝学習週間の設定等により図書館利用数、蔵書貸出数を維持している。 *1 11月実施 *2 特伸クラスでは30分×週3回、普通科クラス・特進クラス共通で10分×週5回 *3 基礎学力診断テスト結果(46期2年2回Cゾーン22名(1年1回18名) ABゾーン12名(2名) 47期2年2回Cゾーン28名(1年1回20名) ABゾーン9名(4名) *4漢字検定3級受験者数5名(前年比19%)合格者40%(前年比+12%) *5 英語検定3級受験者数36名(前年比95%)1次合格率55.6%(前年比+13.5%)2次合格率94.7%(前年比+10.1%)合格率50.0%(前年比+13.2%) ②特に総合型選抜、学校推薦型選抜を利用した大学等進学希望*1、企業への就職希望*2、公務員希望*3の増加を受けて、進路指導部を中心に、進路先別対策講座*4をはじめ、小論文対策*5や面接指導を組織的にに行い、成果を上げた。 *1 大学・短期大学希望24.4%(前年比+3.6%)決定率94.0%(前年比+2.4%) *2 就職希望46.4%(前年比+6.0%) *3 学校教員希望96.6%(前年比+2.4%) *4 公務員希望3.0%(前年比+1.3%)決定率100%(前年比±0%) *5 平常授業日放課後及び長期休業中に実施 *6 全体研修を9月に実施 ③wifi・アクセスポイントの増設*1、タブレット端末の拡充*2、超短焦点プロジェクトの増設*3、書画カメラ*4の導入など、授業の視覚化と対話的授業展開に寄与するICT環境を整備した。また、ハードウェア拡充に伴い、オンライン学習ツールのGoogleClassrooms*5やWeb会議ツールのZoomやGoogleMeet*6などのソフトウェアを導入し、日頃の教育活動の他、リモート全校集会等*7で活用した。さらに本年度は、延長された臨時休業の学習保障のため、YouTube限定公開サービスの運用を開始し、学習支援動画*8を配信した。 *1 既設の機器に加えて、本年度教室用10台と体育館に1台追加 *2 クロームブック44台とiPad(mini)40台に加えて、本年度アンドロイド・タブレット14台を追加(9月調査利用率56%) *3 普通教室16台に加えて、本年度講義室6台(利用率84%) *4 本年度5台新規購入 *5 利用率60% *6 利用率24% *7 始・終業式全5回、進路等説明会全4回、その他研修会 *8 教科学習動画66本、生徒指導・進路指導動画2本</p>	A	<p>①学力向上に係る授業改善の一環として新規に授業研究・研究協議を導入し、授業方策の情報共有はできた。今後は学んだ授業方策の実践と検証の機会を設けるため年度内2回の実施が求められる。新規に教育活動先進校視察を導入したが、緊急事態宣言により実施を見送った。先進校での学びから本校の教育活動に還元するため早期実施が望まれる。朝学習を組織化・体系化し、学年横断的な教材の共有を推進したい。 ②進学や就職等多様な進路希望を支援するため進路先別講座を展開したが、該当学年・クラスの負担感が大きい。今後は学年横断的な実践が求められる。 ③ICT環境を整備し、授業の視覚化等を推進したが、タブレット端末とWeb会議ツールの利用率は高くはない。効果的な授業開発が喫緊の課題である。</p>	<p>○今年度は当初から新型コロナウイルス感染症拡大という大きな問題にぶつかり、様々な行事が中止となったことを心から残念に思っている。そうした中でも、先生方は生徒のために創意工夫して教育活動を展開している。 ○学力向上については大変大切なことであるが、心と体が健康でなければ、学力も上がらないのでは、と考えている。健全な心と体を持ち、何事にも前向きな気持ちで物事に取り組める環境を作ることが、先生方や保護者の役目であると思う。</p>	<p>令和3年2月1日</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p>
2	<p>○生徒数の減少や中学校での部活動数の減少に伴い、運動部を中心に活動人数が減少している。</p>	<p>①部活動の活性化を図る。</p>	<p>①生徒全員を部に所属・活動させる。運動部・文化部ともに、積極的に大会やコンクール等に出場し、活動の活性化を図る。 ①-2部活動表彰者数の増加 ①-3本学部活動と中学校の部活動との合同練習の促進を図る。 ①-4部活動数の適正化</p>	<p>①各種大会やボランティア活動への参加 ①-2部活動表彰生徒数の増加 ①-3中学校との合同練習等の回数 ①-4部活動数についての検討ができたか。</p>	<p>①特に部活動はCOVID-19拡大の影響を強く受けたが、1回目の緊急事態宣言解除後の大会等で好成績を残した。また、多くの部活動が、制限された時間・内容・施設を有効利用できるよう技術指導等により工夫を凝らした。しかし、第2波、第3波の拡大を受け、地域貢献ボランティア*1や異校種学校との合同練習等は思うように進まなかった。また、あまり活動できていない部活動について、活性化を進める観点から、活動の在り方について協議する必要がある。 *1 例年近隣購買校の活動を支援する地域貢献ボランティア、八潮市ゴミゼロ運動などに参加</p>	B	<p>①引き続き小・中学校からの不登校経験者へのきめ細かな対応、及びカウンセリング技術の向上が求められる。 ②引き続き小・中学校からの不登校経験者も満足にできず、理解の浅いままであった中にも多く、4月からの学校生活で思い描いていたものと違っており、思い描いた心にも寄り添った指導が求められる。</p>	<p>○特に5月は、学校に登校できないことで、勉強も部活動もできない状態が続き、多くのことに挑戦し、および時期に胸を張らせていた新入生にとっては悩むところでした。</p>	<p>令和3年2月1日</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p>
3	<p>○本校に関する理解や情報が地域等に周知されていない。特に体育コースに関しては、内容が周知されておらず、地元を含め地域への理解を促進させる必要がある。</p>	<p>①進路変更者数 ②基本的な生活習慣</p>	<p>①中高連携委員会を中心に学校説明会や体験入学等の生徒募集活動を展開する。 ①-2管理職を含む全教職員による中学校訪察の実施及び2年生の母校訪問の実施。 ①-3ホームページの更新・訪問の実施 ①-4ホームページにおけるの入試情報や部活動、学校行事等の情報発信を高める。</p>	<p>①学校説明会や体験入学会等の参加者数の増加 ①学校説明会や体験入学会参加者から高い満足度を得ることができたか。 ①-2実施校数の増加 ①-3実施訪問数 ①-4HPアクセス数</p>	<p>①中高連携委員会を中心に、学校案内やリーフレット、HPの内容を刷新し、本校の新たなイメージづくりに大きく寄与した。特にHPのアクセス数は期待値より多く*1、モジュールを整理し情報発信の更新頻度を大幅に増やした効果も表れている。また、学校説明会等*2については、COVID-19拡大防止の観点から、従来の体育館一斉実施の学校概要説明等を動画に改め、密を避けるため複数教室に分散して同時視聴し、好評を得た。動画の鮮度を保つため、学校長挨拶と学校ガイダンスは毎回更新し、常に新しい情報提供に努めた。学校説明会ⅢとⅣは、緊急事態宣言を受けYouTube限定公開を利用したオンライン配信のみで実施した。中学校・学習塾訪問の規模を小さくせずに実施し、普通科については、入試倍率を向上させた*3。 *1 2/11時点で40万アクセスを超えている。 *2 体験入学(9月)参加組133(前年比88%)オープンスクール(10月)67組(前年比140.0%)学校説明会Ⅰ(11月)110組(前年比122%)学校説明会Ⅱ(12月)74組(前年比103%) *3 普通科1.10倍(前年度同期0.87倍)普通科体育コース0.43倍(0.55倍)</p>	A	<p>①COVID-19感染拡大の観点から、周囲の高等学校が説明会の中止、または規模の縮小等の措置を講じたが、本校はICT技術を駆使して例年を上回る来場者を得た。しかしながら体育コースへの希望は振るわず苦戦している。今後はメディア等への発信を更に強化する必要がある。</p>	<p>○生徒募集に関しては、普通科新1学年のクラス数が減ったことでもあり良い倍率を維持しているが、体育コースは苦戦している。引き続き生徒募集を工夫し中高連携を強化する必要がある。</p>	<p>令和3年2月1日</p>	<p>学校関係者からの意見・要望・評価等</p>